

1月28日 ヨハネによる福音書8章21～36節

説教題：「自由に生きたい」

今日の説教題は「自由に生きたい」とつけさせていただきました。きっと、誰もが思っていることだと思います。しかしそもそも、自由とは、いったいどんな状態のことを意味するのでしょうか。自由をはき違えて自分勝手に振舞ってしまったその先には、欲望によって心と体を支配された奴隷のような状態が待っています。そうではなく、本当の自由によって突き動かされた私たちは、「自由に何かをすることができる」「しかも、それで満たされる」、そんな状態が私たちには与えられるのです。

今日の聖書個所でイエス様は、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」と言っています。真理を知らなければ自由になれない、ということです。それはつまり、イエス様の言葉以外にとどまる時に、私たちは自由ではなくなってしまうということの意味します。彼らユダヤ人たちの場合は、律法や神殿という、それ自体を神聖視するべきではないものにとらわれてしまっていました。彼らが心の底からイエス様の御言葉だけを信じて、神様の御心の中にとどまることができれば、その福音がもたらす真理は、「律法の奴隷からの解放」と「罪の中からの解放」を人々に与えてくれるのです。

私たちキリスト者には、自由が与えられています。それは、「自分が犯した罪によって委縮することなく、堂々と神様の望みをかなえる」という自由であり、もはや私たちを縛り付けるものは何もありません。ただもちろん、だからといって何をしてもいい、何をしてもゆるされるという訳ではありません。神様の望みの中で生きて、神様の恵みの中で生きる私たちは、神様の導きから外れないように気を付けなければいけません。それは十戒に示されているような、「殺してはいけない」「盗んではいけない」という言葉を当たり前のように守り、そして神様のことを第一に考えながら、礼拝生活を、信仰生活を続けていくことを私たちの生活の基盤に据えることから始まります。しかし、それ以外のことは、驚くほど私たちには自由が与えられているのです。自由に、正しく生きる、「私たちは正しく生きている」「私たちは、ただ神様を信じて、神様の望みの中で生きて、この世で用いられるだけで神様が喜んでくれている」、そう勇気付けられながら、様々なことを行うことがゆるされているのです。

そしていつか私たちはこの世での命を終えて、神様の元に招かれる時が来るのでしょうか。その時こそは、体の衰えを気にすることも、気力の限界を気にすることもなく、神様の支配する国で伸び伸びと生活をする、そんな場所を備えて、イエス様は天の国において私たちのことを招き入れてくれるのです。

そのような場所が、この地上に少しでも実現することができたならば、私たちがいつも祈り求めている「み国を来たせたまえ。御心を地にもなさせたまえ」という願いを実現させることができるのです。私たちが生きるこの日本は、この江刺という土地は、治安という意味においては神様の御国に最も近い場所だと私は感じています。特にそのことを、この2年間で実感することとなりました。すべての人が安心して生きることができる、そんな場所をこの地にも作り上げるためにも、まずは私たち一人一人が、隣人が安心して生きることができるこの地を作り上げる一員として用いられていきたいと思います。私たちが神様の前で本当に自由に生きるために行うべきことは何なのか、本当に正しいことは何なのかをいつも神様の御言葉の中に追い求めながら、この人生を豊かに歩み続けましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書8章21～36節

- ・21:そこで、イエスはまた言われた。「わたしは去って行く。あなたたちはわたしを捜すだろう。だが、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる。わたしの行く所に、あなたたちは来ることができない。」ユダヤ人たちが、『わたしの行く所に、あなたたちは来ることができない』と言っているが、自殺でもするつもりなのだろうか」と話していると、イエスは彼らに言われた。「あなたたちは下のものに属しているが、わたしは上のものに属している。あなたたちはこの世に属しているが、わたしはこの世に属していない。だから、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる、わたしは言ったのである。『わたしはある』ということ信じないならば、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる。」彼らが、「あなたは、いったい、どなたですか」と言うと、イエスは言われた。「それは初めから話しているではないか。あなたたちについては、言うべきこと、裁くべきことがたくさんある。しかし、わたしをお遣わしになった方は真実であり、わたしはその方から聞いたことを、世に向かって話している。」彼らは、イエスが御父について話しておられることを悟らなかった。そこで、イエスは言われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。わたしをお遣わしになった方は、わたしと共にいてくださる。わたしをひとりにしてはおかれない。わたしは、いつもこの方の御心に適うことを行うからである。」これらのことを語られたとき、多くの人々がイエスを信じた。
- ・31:イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」すると、彼らは言った。「わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。」イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。